

令和4年度
広島県立庄原実業高等学校
マイスター・ハイスクール中間成果発表

令和4年11月7日(月)

1. 目指す姿

- (1) 学校経営計画
- (2) マイスター・ハイスクール事業

2. 昨年度の成果と課題

3. 今年度の取組

- (1) カリキュラムの刷新
- (2) 体制づくり
- (3) 魅力発信
- (4) 管理機関の支援

4. 今年度の成果と課題

- (1) 学習評価
- (2) 事業評価

5. 今後の計画

1. 目指す姿

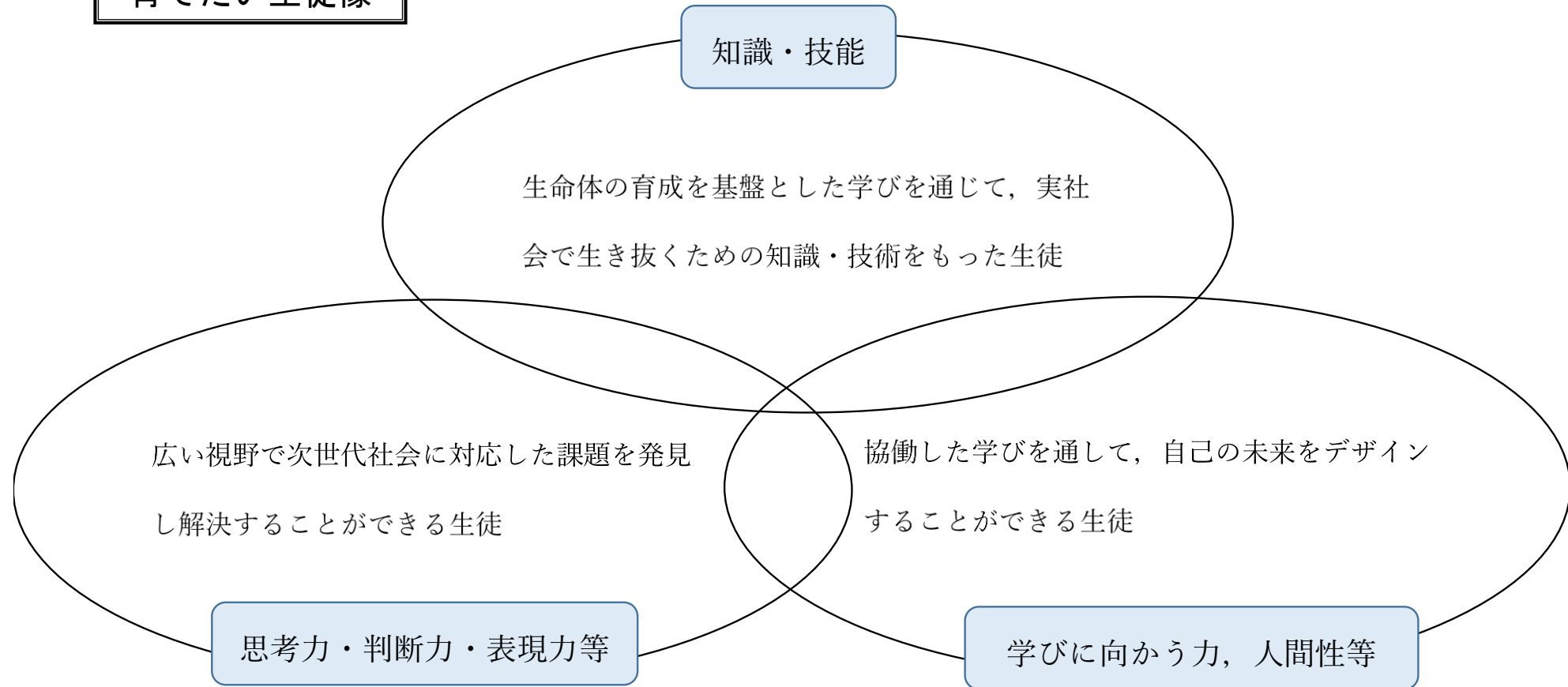
- (1) 学校経営計画
- (2) マイスター・ハイスクール事業

1. 目指す姿 (1) 学校経営計画

教育目標

農業教育を通して新しい価値を創造し，地域，社会に貢献するクリエイターを育成します。

育てたい生徒像



1. 目指す姿 (2) マイスター・ハイスクール事業

目指す生徒の姿

地域の未来社会実装型農業をデザインする
アグリビジネスプレイヤー

豊かな心と主体的に学ぶ姿勢を身に付け、農業の専門分野を究めつつ、身近な物事に対する課題意識を持ち、新たな価値を提案するとともに、地域や社会の持続的な発展に貢献しようとする生徒

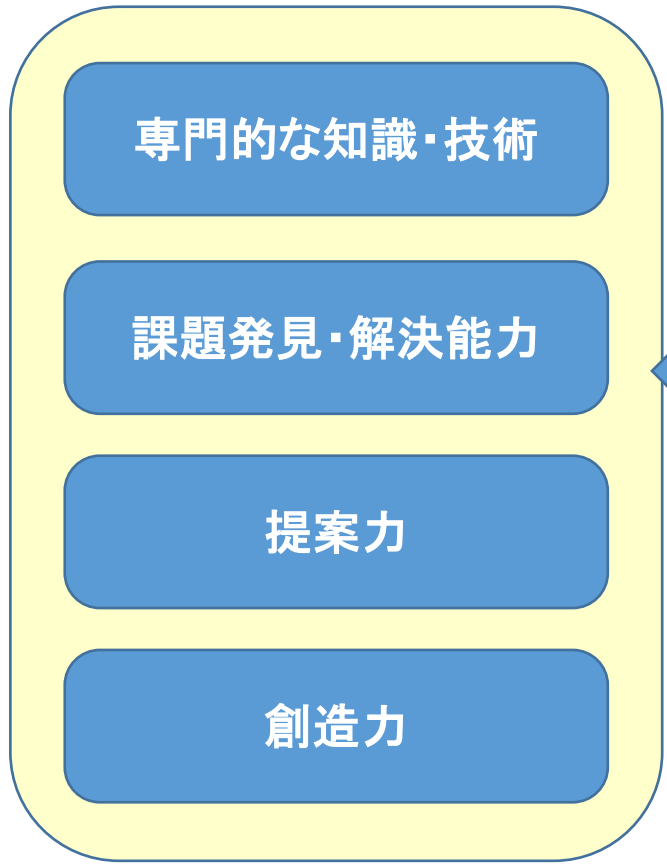
求める資質・能力

地域や社会が高校段階で求める力	
<ul style="list-style-type: none">➤ 経営の合理化を図る力➤ 先端技術を積極的に導入する力➤ 米を中心とした土地利用型農業を営む力➤ 農作物等の6次産業化に取り組む力➤ 地域に貢献できる力➤ 地域の良さに気付く力➤ 地域農業の中に農業経営の可能性を見いだす力	<ul style="list-style-type: none">➤ 地域や社会の課題にビジネスとしての価値を見いだす力➤ 自らの手で課題を解決しようとする力➤ 社会の課題解決に携わることによって価値を見いだす力➤ コミュニティを創る力➤ コミュニティを繋ぐ力

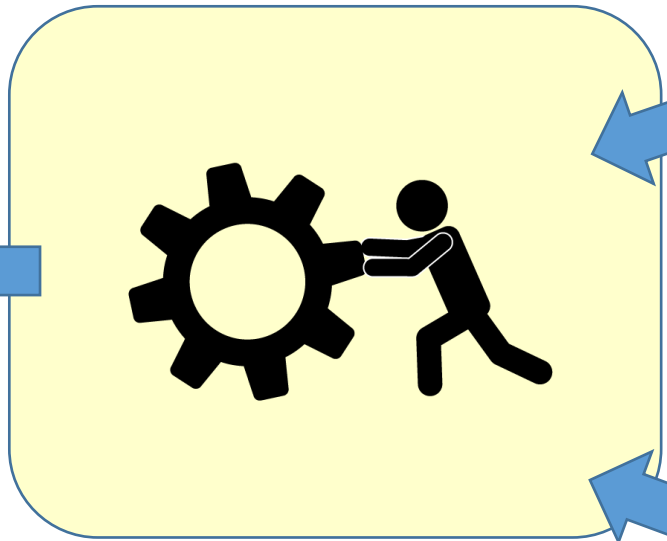
※令和3年度【庄原実業高等学校 第1回マイスター・ハイスクール運営委員会】

1. 目指す姿 (2) マイスター・ハイスクール事業

そのような生徒を育むために、本事業で特に身に付けさせたい資質・能力



育成すべき生徒の姿に対するイメージを産学官で共有



学校・教職員・生徒 保護者の願い

様式 学校経営計画(1年目)

校番号 091 学校名 広島県立庄原実業高等学校 校長氏名 八幡 寛晃 @:定通 @:分

1 教育目標
農業教育を通して新しい価値を創造し、地域・社会に貢献するクリエーターを育成します。

2 育てたい(幼少・児童)生徒像
(1) 生命体の育成を基礎とした学びを通して、実社会で生き抜くための知識・技術をもった生徒
(2) 広い視野で次世代社会に対応した課題を発見し解決することができる生徒
(3) 挑戦した学びを通して、自己の未来をデザインすることができる生徒

3 中期(3年間)経営目標 ※教育活動その他の学校運営に関する目標
(1) 社会に貢献できる人材の育成
(2) 社会をリードする農業教育の実現
(3) 信頼される学校

4 短期(本年度)経営目標及び行動計画等 ※中期(3年間)経営目標を達成するための本年度の経営目標及び行動計画等

中期(3年間)経営目標
(3) 社会に貢献できる人材の育成

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値(前年度)	目標値
(1) 社会人基礎力を育成する。	○主体的に「有言、無言」試験に行きこなせる生徒を育成する。 ○3割「時間厳守・整理整頓・挨拶動作」を実践(徹底)する。	○服装検査等において指導を受けなかった生徒の割合 ○時間厳守 遅刻遅到をしていない生徒の割合 ○整理整頓 生徒による学校環境整備活動回実地回数 ○挨拶動作 生徒対象アンケートにおける育英奨励金の割合	新規 70% 旧値 70% 新規 0日 90.9%	70% 0日 95%
(2) 豊かな心を育成する。	○安全・安心な学校づくりを推進する。 ○設備等の主体的な利用を促進する。	○生徒個別相談室における相談実施回数 ○一人当たりの年間出席回数	新規 6回# 旧値 0.5回#	6回# 0.5回#
(3) 進路実績を向上させる。	○生徒の希望進路を実現する。 ○学科特性に適した進路を実現する	○第1希望達成率 ○学科特性に適した進路実現を果たした生徒の割合	89.1% 55.0%	90% 90%

※3年生は3回とする。

【学校経営計画】

地域や社会の願い

広島県立庄原実業高等学校
マイスター・ハイスクールビジョン

地域の未来社会 実習型農業をデザインする
アグリビジネスプレイヤーの創出
- Think Globally, Act from Shobara -

1 学校の使命
2 教育目標
3 育てたい(幼少・児童)生徒像
4 中期(3年間)経営目標
5 短期(本年度)経営目標
6 本年度行動計画
7 評価指標
8 現状値(前年度)
9 目標値

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

庄原ひとづくりコンソーシアム
令和3年度・令和5年度

【マイスター・ハイスクールビジョン】

1. 目指す姿 (2) マイスター・ハイスクール事業

事業名

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出 ~ Think Globally, Act from Shobara ~

事業の目標

庄原実業高等学校の進路目標

就農可能率 [%]	R1 11.2 ⇒ R5 15.0
農業技術大学校への進学者数 [人]	R1 5 ⇒ R5 7
農業関連学部への進学者数 [人]	R1 2 ⇒ R5 3

第2期庄原市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和3年度~令和7年度(案))

新規就農者【累計】[人]	R1 62 ⇒ R6 83以上
認定農業者数【累計】[経営体]	R1 212 ⇒ R6 270以上
農業への参入企業数【推計】[経営体]	R1 12 ⇒ R6 15

教育課程

企業等産業界との連携 (社会実装イノベーション)

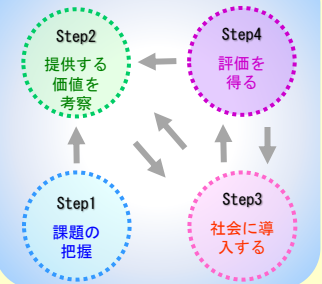
	産業実務家教員の活用	先端農家での実習等
3年	産業現場における社会実装の支援	農家等における社会実装
2年	フィールドリサーチの支援 産業現場実習支援	フィールドリサーチ
1年	社会人講話 技術指導	先端農家の経営者による講話

探究的な学習活動(産業界等との連携による社会実装プロジェクト)

資質・能力の育成

- 3年「課題研究」
 - アグリビジネスコンペティション
 - STEAM×PBL
- 2年「農業実践研究」
 - アグリビジネスアイデアソン
 - フィールドリサーチ
- 1年「農業と環境」
 - グローバルデザインthinking
 - キックオフミーティング

社会実装に向けた4つのステップ



地域の産業等が抱える課題

大学等との連携 (科学技術イノベーション)

	大学との連携	農業技術大学校との連携
3年	共同プロジェクト研究	共同プロジェクト研究
2年	研究室での実験・実習	施設・設備等を活用した実習
1年	教授・学生が取り組む研究調査	農大生の描くライフプラン講話

個別最適な学び

デジタル機器の活用, 探究ガイダンス

協働的な学び

産業界等と連携したSTEAMプログラム, 学科(4学科)間連携

校内体制

学科主任会議, マイスター事業連絡会議の開催

- ✓ 校務運営会議やマイスターハイスクールCEOの助言等を踏まえた学科運営等に係る検討
- ✓ 産業実務家教員の活用等に係る検討

連絡調整

校務運営会議の開催

- ✓ カリキュラム・マネジメントの視点に立った農業教育全般に係る検討
- ✓ 教育課程の編成, 学科改編に係る検討

連絡調整

マイスターハイスクールCEOの配置

- ✓ 産業界との連絡調整
- ✓ 教育課程の編成・実施等に係る助言等

教育課程の編成・校内体制の構築

内部統合の視点

- 学校・学科等の目標
- 生徒の実態
- 教師や保護者の願い

学校の教育目標

育成したい生徒像
(資質・能力)

外部環境の視点

- 社会的な要請
- 地域の実情・願い
- 地域からの期待

マイスターハイスクールCEO選出

出席

指導・助言

マイスター・ハイスクール運営委員会

マイスター・ハイスクール事業推進委員会

マイスター・ハイスクールビジョンの策定・提言

「庄原ひとづくりコンソーシアム(仮称)」

庄原実業高等学校	庄原商工会議所	県立広島大学
広島県	庄原市	農業技術大学校
広島県教育委員会	庄原農業協同組合	庄原中学校

別紙様式3

2. 昨年度の成果と課題

2. 昨年度の成果と課題

(1) カリキュラムの刷新

本質的な問い:「持続可能な社会・地域のために、私たちは庄原にどのように関わるべきか」
プロジェクト統一テーマ:「10年後の庄原を支えるアグリビジネス」

学習プログラムⅠ キックオフミーティング

- 当事者意識を持ち、探究活動への興味・関心を高める。



学習プログラムⅡ グローバルデザインThinking

- デザイン思考により、自分と世界と未来を繋ぐ。



学習プログラムⅢ フィールドリサーチ

- 地域のリアルな課題に気付く。



学習プログラムⅣ アグリビジネスアイデアソン

- メンターからの助言を受け、研究仮設の妥当性を確認する。



【学習プログラムⅠ～Ⅳに取り組む生徒の様子】

《成果》

本質的な問いベースで、3年間を貫く「未来思考型PBL」のスタートを切ることができた。
など

《課題》

- ・学習プログラム実施前後の生徒の変容を見取り、学習評価に反映すること。
- ・ファシリテート、コーチング、マネジメントに係る教職員のスキル向上。 など

2. 昨年度の成果と課題

(2) 体制づくり (外部環境)



古川CEO



谷口産業実務家教員

庄原ひとづくりコンソーシアム



庄原市



庄原実業高等学校



庄原商工会議所



広島県教育委員会
広島県商工労働局
広島県農林水産局



県立広島大学



広島県立農業技術大学校



庄原中学校



庄原農業協同組合



マスター・ハイスクールビジョン



谷口産業実務家教員所有
最先端のコンバイン操作実習



《成果》

- ・古川CEO, 谷口産業実務家教員を選任し、「庄原ひとづくりコンソーシアム」を立ち上げることができた。
- ・「マスターハイスクールビジョン」を策定することができた。 など

《課題》

- ・「マスター・ハイスクールビジョン」の実現に向けた具体的な活動を実践する。
- ・共同研究・共同施設利用に係るルールの明確化 など

3. 今年度の取組

- (1) カリキュラムの刷新
- (2) 体制づくり
- (3) 魅力発信
- (4) 管理機関の支援

(1) カリキュラムの刷新

- ① 「未来思考型 P B L」の教材・教授方法の共有と継承
- ② 学習プログラムⅤ, 「S T E A M×P B L」, 学習プログラムⅥ「アグリビジネスコンペティション」の内容・方法に係る検討
- ③ 「産学官一体型のキャリアモデル」に係る検討
- ④ 教育課程の刷新に係る検討

「未来思考型PBL」とは

「庄原ひとづくりコンソーシアム」と庄原実業高等学校で開発する、産学官一体型の「学習プログラム」を示す。そのコンセプトは次のとおり。

○本質的な問いからのアプローチ

全ての教育活動を通じて自身の未来と地域・社会の未来を同時に考えていけるよう、1年次に「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わるべきか。」という問いを投げかけ、3年間かけて最適解を導き出せる体系的・系統的な学習プログラムを開発する。

○プロジェクト学習の改善

これまで主流であった教師主導型のプロジェクト学習から、生徒自ら課題を見つけ、自身のキャリア形成と地域や社会の未来創造が連動するようなプロジェクト学習へと進化させる。また、これを「未来思考型PBL」と名付ける。

○「リアル」な体験と「バーチャル」とを融合した学習展開

農業教育ならではの体験や、地域や社会にある「ホンモノ」のヒト・モノ・コトに触れる学習の充実と、ICTを活用した学習機会の充実。

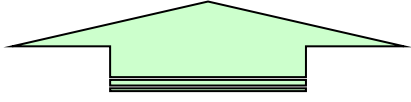
3. 今年度の取組 (1) カリキュラムの刷新

「未来思考型PBL」の学習プログラム

学習プログラム		対象学年	学習目標	内容・方法
I	キックオフミーティング	1年 教職員	これから始まるプロジェクトに対する興味・関心を高めることができる。	講演 外部講師
II	グローバルデザインThinking	1年	デザイン思考により自分と世界と地域を繋ぐことができる。	演習・協議 外部講師
III	フィールドリサーチ	1年 2年	地域のリアルな課題を発見することができる。	現地調査 オンラインリサーチ
IV	アグリビジネスアイデアソン	1年 2年	プロジェクト仮説の妥当性を検討することができる。	発表 メンターによる助言
V	STEAM×PBL	3年	教科等横断的な視点でプロジェクトを遂行することができる。	普通教科と専門教科の コラボ授業
VI	アグリビジネスコンペティション	3年	プロジェクトの社会実装化に向けて必要な要素を理解することができる。	発表 メンターによる助言

3. 今年度の取組 (1) カリキュラムの刷新

育てたい生徒像



第1学年

第2学年

第3学年

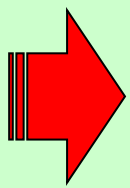
専門教科

農業と環境

- アグリビジネスアイデアソン
- フィールドリサーチ I
- グローバルデザインThinking
- キックオフミーティング

特別活動

普通教科



専門教科

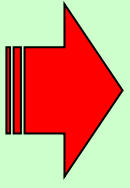
- 各種資格講習会
- 学校農業クラブ活動等
- デュアル派遣実習
- インターンシップ

農業実践研究

- アグリビジネスアイデアソン
- フィールドリサーチ II

普通教科

特別活動



専門教科

- 各種資格講習会
- 学校農業クラブ活動等
- デュアル派遣実習
- インターンシップ

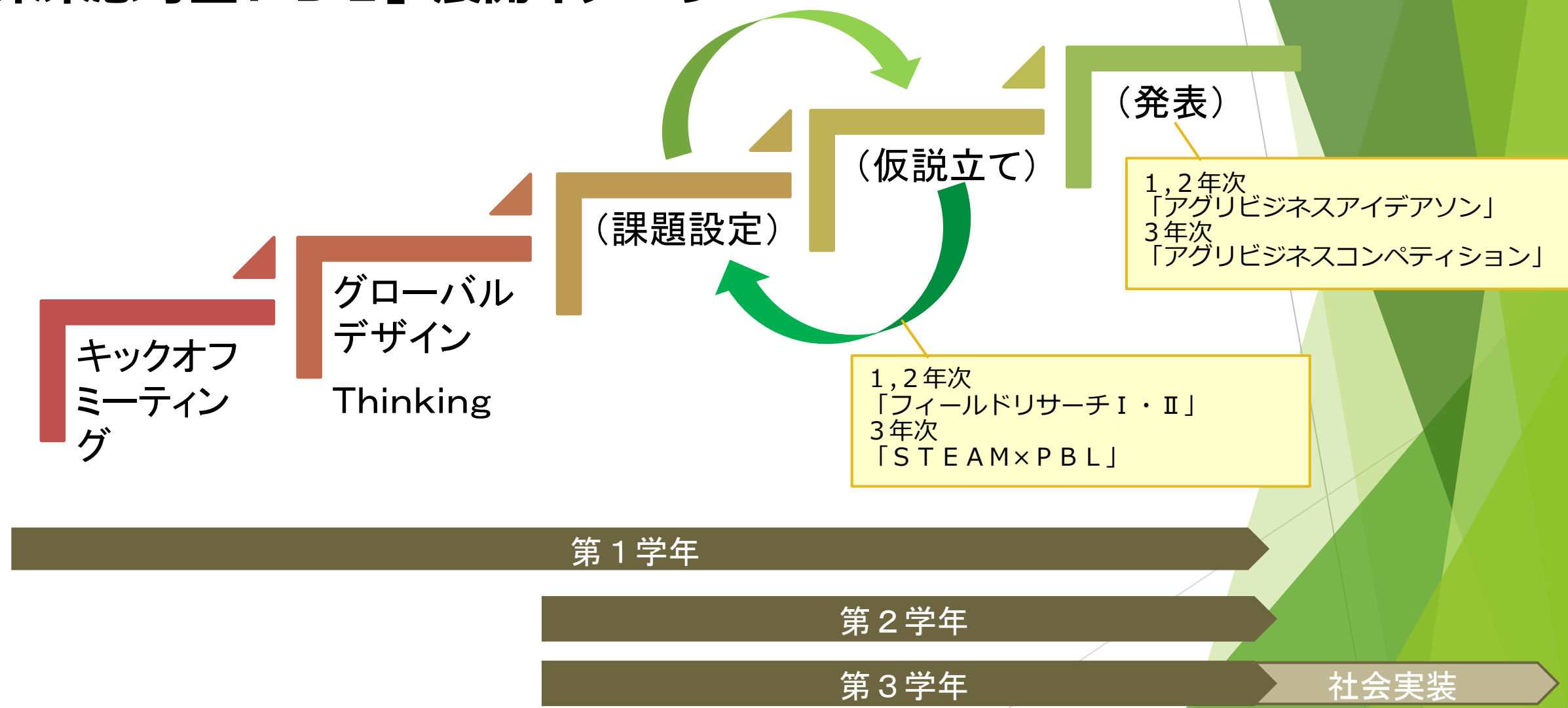
課題研究

- アグリビジネスコンペティション
- STEAM×PBL

普通教科

特別活動

「未来思考型PBL」展開イメージ



「未来志向型 P B L」の実施状況

現在までのところ、学習プログラム I ~ IV を次のとおり実施

- ▶ 対象生徒：第 1 学年全学科 (生物生産学科・食品工学科・環境工学科・生活科学科)
- ▶ 対象科目：「農業と環境」 4 単位の内 4 0 時間
- ▶ 教材の共有方法
 - ・ 生徒所有ノート型 P C を活用
 - ・ ワークシートやオンライン協議は Google Workspace で共有

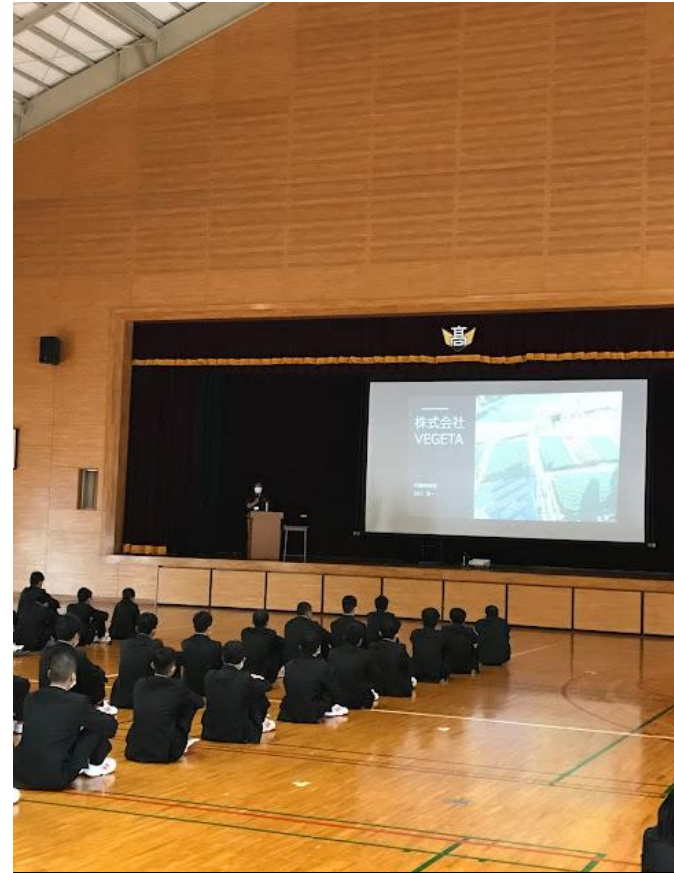
3. 今年度の取組 (1) カリキュラムの刷新

学習プログラムⅠ：キックオフミーティングの様子

実施：令和4年4月11日（月）



板垣教諭より昨年度の報告



産業実務家教員 谷口氏
株式会社vegeta概要説明と経営方針



古川CEO
MH事業に積極的に関わるためのコミュニケーション能力の育成

3. 今年度の取組 (1) カリキュラムの刷新

未来思考型PBLを展開するための「情報分析」に係る授業

実施：令和4年6月14日（火）
6月15日（水）

学科	月日	時間	派遣依頼事業社・組織			
			事業社・組織名	主な事業	講師氏名	職名
生物生産学科	6月15日(水)	9:50~10:40	広島県北部農林水産事務所	生産基盤整備 農業振興	藤井 俊二	農村振興課長
			庄原市企画振興部 農業振興課	農業・畜産 振興	原田 淳司	畜産振興係長
生活科学科	6月15日(水)	10:50~11:40	社会福祉法人優輝福祉会 ユーシャイン	高齢者福祉 障害者 就労支援	熊原 保	理事長
			合同会社前田農園	トマト栽培加工・農 家レストラン・民宿	前田 智永	業務執行社員
食品工学科	6月14日(火)	9:50~10:40	株式会社NOSON (瀬尾商店)	農産加工販売	瀬尾 達徳	代表取締役
			農事組合法人 夢ファーム永末	農産加工 水稻経営	加藤 政利	会長
環境工学科	6月14日(火)	10:50~11:40	広健コンサルタンツ 株式会社	土木工事 調査設計 ・監理	高橋 純寿	専務取締役事業本部長測 量調査部長
			庄原市企画振興部 林業振興課	林業振興 里山再生事業	坂部 広和	広島森づくり アドバイザー

3. 今年度の取組 (1) カリキュラムの刷新

未来思考型 P B L を展開するための「情報分析」に係る授業

実施：令和4年6月14日（火）
6月15日（水）

- ▶ 庄原地域の魅力や課題等を地元企業・行政から講師を招き、地域を知ること、庄原地域の未来創造や、地域に関わることの意義を認識し、「未来思考型 P B L」に対する意欲を高める。



対話形式による講演会

3. 今年度の取組 (1) カリキュラムの刷新

学習プログラムⅡ：グローバルデザインThinking

実施：令和4年6月28日（火）



3. 今年度の取組 (1) カリキュラムの刷新

学習プログラムⅢ フィールドリサーチ

実施予定：令和4年10月24日（月）～適宜



学習プログラムⅣ アグリビジネスアイデアソン

実施予定：令和4年11月



(2)体制づくり

- ① 校内体制の充実
- ② 教職員の資質向上
- ③ 外部人材の活用
- ④ 講演会の実施
- ⑤ 共同研究・共同施設利用

3. 今年度の取組 (2) 体制づくり

② 教職員の資質向上

	分類	実施月日	方法	講師	ねらい
研修1	カリキュラムマネジメント	4月5日	講義・演習	株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀様	本事業に取り組む意義を理解する。
研修2	「未来思考型PBL」の推進	5月19日	パネルディスカッション	パネリスト8名 コーディネーター1名	地域を知り「未来思考型PBL」の指導に活かす。
研修3	専門性の向上	8月22日	現地視察 羽佐竹大規模団地	株式会社vegeta 谷口 浩一様	先進的な農業経営について知る。
研修4	共同研究・共同施設利用	9月9日	講義	山口大学知的財産センター 陣内 秀樹様	共同研究・共同施設利用等，外部連携推進のためのルールづくり。



研修1

これから子供たちに求められる力とはどのような力か考え、付箋で共有しました。

地域の未来を創造するにあたり、ビジョンを持って指導することの重要性を感じました。



研修2



研修3

先進的な技術を学ぶことは、希望を持つことにも繋がることに気がしました。農業の可能性を感じました。

学校現場における様々な事例が、知的財産権の侵害に繋がる可能性があることに気がしました。



研修4

③ 外部人材の活用

《古川CEOの取組》

▶ 役割

事業全般の進捗把握

校内の情報共有体制の構築に係るマネジメント

地域の人材と学校を繋ぐ

取組を校外に発信する機会の提供

▶ 勤務体制

週2日



古川充行政書士事務所
地域経営コンサル
合同会社なるさ
代表社員 古川充 氏
(地域活性化伝道師)

3. 今年度の取組 (2) 体制づくり

③ 外部人材の活用



↑ 今年度着任された校長・教頭・高校教育指導課長と商工会議所訪問

庄原市提案「ざっくばらんな会」の立ち上げの様子→

《今年度の主な実績》

- ▶ 庄原市長訪問
- ▶ 庄原商工会議所訪問
- ▶ 庄原市役所でのパネル展示に係る企画・運営
- ▶ 教員研修の講師連携
- ▶ 授業に係る講師連携
- ▶ ざっくばらんな会の開催



3. 今年度の取組 (2) 体制づくり

③ 外部人材の活用

《谷口産業実務家教員の取組》

▶ 役割

園芸作物の生産に関する指導

最先端の農業機械のデモンストレーション

農業経営に係る指導

ドローンの活用に係る指導

▶ 指導科目 (例)

生物生産学科 第1学年 科目「生物生産学基礎」(2単位)

生物生産学科 第2学年 科目「農業実践研究」(2単位)

生物生産学科 第3学年 科目「課題研究」(3単位)



産業実務家教員
株式会社vegeta

代表取締役 谷口 浩一 氏

3. 今年度の取組 (2) 体制づくり

③ 外部人材の活用



科目「農業実践研究」スマート田植え機の講習 5月27日(金)



科目「農業実践研究」スマート草刈の講習 6月17日(金)

3. 今年度の取組 (2) 体制づくり

③ 外部人材の活用

谷口産業実務家教員が、生物生産学科 第3学年 科目「課題研究」の1チームを担当。
(株) vegetaの農場で、大根の収穫、調整に取り組む様子。

《プロジェクトテーマ》 **学校給食用野菜の地産地消に挑戦 ～スマート農業で耕作放棄地を宝の山に！！～**



3. 今年度の取組 (2) 体制づくり

④ 講演会の実施

⑤ 共同研究・共同施設利用に係る取り組み

- ▶ 日時：令和4年9月9日（金）
- ▶ 研修テーマ「産学官連携推進のためのルールについて」
- ▶ 講師：山口大学 知的財産センター 准教授 陣内 秀樹 様

▶ 実施科目

- | | | |
|------|-------|------------|
| 3 時限 | 第3 学年 | 科目「現代社会」 |
| 4 時限 | 第2 学年 | 科目「農業実践研究」 |
| 5 時限 | 第1 学年 | 科目「公共」 |



3. 今年度の取組 (2) 体制づくり

令和4年度 共同研究一覧表

学科	研究題目	外部連携先	
生物生産学科	庄実Nashi（ナシ）が海を渡る 持続可能な農業生産で世界へ	JA広島果実連およびJA庄原	
	アスパラガスの彩り栽培に挑戦 ～アスパラガスを七色に～	県立広島大学生物資源科学部 地域資源開発学科蔬菜園芸研究室	
	学校給食用野菜の地産地消に挑戦 ～スマート農業で耕作放棄地を宝の山に！！～	株式会社Vegeta	
	昆虫の飼料化についての調査研究	京都大学大学院農学研究科 応用生物学専攻	
	全国和牛能力共進会に向けた取組 牛の調教～碁盤乗り～	庄原市農業振興対策調整会議・畜産振興検討班	
	食品工学科	天然酵母を用いたパン作りに関する研究	県立広島大学生命環境学科環境科学科
	環境工学科	森林の環境保全に関する取り組み 「森林協定による林業の現状と今後」	林野庁近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署, 広島県森林組合連合会
耕作放棄地における特用樹, ウルシ苗生産		西日本漆を守る会	
耕作放棄地における自然栽培による 激辛唐辛子の栽培		吉岡香辛料研究所	
生活科学科	アレルギーはお友だち ～みんなちがってみんないい～	庄原市立庄原保育所	
	音楽と園芸で高齢者のQOLの向上を目指そう！	庄原市社会福祉協議会	
	デニム文化を庄原に広めよう！	カイハラ株式会社	

(3) 魅力発信

MEDIA-spaceを活用し、学校紹介動画やパンフレット等を生徒自身が作成し、農業高校の魅力発信に取り組む中で、生徒の動画作成・プレゼンテーションスキルの向上を図る。

PRパンフレット

6月21日	生徒とソフィアさんとの打ち合わせ
7月8日	生徒の原稿完成
9月30日	ソフィアさんからデザイン案の回答
今後の予定	デザイン案の修正 ソフィアさんとの協議

広島県立庄原実業高等学校

LOOK!

庄原実業生の日常 その①



生物生産学科



レインボーアスパラガスへの挑戦
～庄原活性化大作戦☆～
先輩から紫のアスパラガスを引き継ぎ、レインボーアスパラガスの栽培に挑戦！ ホワイトやピンクのアスパラガスの栽培を目指して日々奮闘しています。これまで、県立広島大学地域資源開発学科ヘデュアル派遣実習にいき、ホワイトアスパラガスの長期採り技術や、母差押し倒し誘引法などについて学んできました。でもいざ栽培してみるとアスパラガスの生育が悪く、失敗の連続でした。そんなとき「いずみ農園」さんにアドバイスを頂き、生育が早い品種「ガリバー」の苗を譲っていただきました。現在、この苗を露地圃場に定植し、8月に少し収穫できるように取り組んでいます。将来的には4色（紫・ホワイト・ピンク・グリーン）セットの「レインボーアスパラガス」を販売できるよう頑張ります！



食品工学科



未来のエキスパート
食品工学科は、主に2つの類型に分かれています。1年生の時は全体で学び、2年生の時から類型に分かれて学習します。生物工学類型では、食品製造実習、微生物利用の実験をします。食品製造類では、主に製造実習ですが、実験も行います。食品工学科ならではの学習を行っています。専門的な知識も学べるので、更に「学びたい」「実験したい」という気持ちになります。座学でも実習でも学べるので楽しいです。食品工学科では、私生活で必ず役に立つことがたくさんあるのも魅力です。



3. 今年度の取組 (4) 管理機関の支援

管理機関は、「運営委員会」や「事業推進委員会」を通じて、学校の願いと、「庄原ひとづくりコンソーシアム」に集約される地域や社会の願いとを繋ぐ場を提供。

庄原ひとづくりコンソーシアム

古川CEO 谷口産業実務家教員



庄原市



庄原実業高等学校



庄原商工会議所



広島県教育委員会
広島県商工労働局
広島県農林水産局



県立広島大学



広島県立農業技術大学校



庄原中学校



庄原農業協同組合

3. 今年度の取組 (4) 管理機関の支援

マイスター・ハイスクールビジョンの実現を通じて、「学校教育目標」が達成できるよう、事業の進捗管理や指導・助言を行う。



谷口産業実務家教員



マイスター・ハイスクール
ビジョン



古川CEO

目指す生徒の姿

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグビジネスプレイヤー



具体的な取組

- | | | | | | |
|---|----------------------|---|-------------|---|-----------|
| 1 | 産学官一体化型の
カリキュラム開発 | 2 | 校内体制の充実 | 3 | 教職員の資質・向上 |
| 4 | 外部人材の活用 | 5 | 共同研究・共同施設利用 | 6 | 魅力発信 |

願い

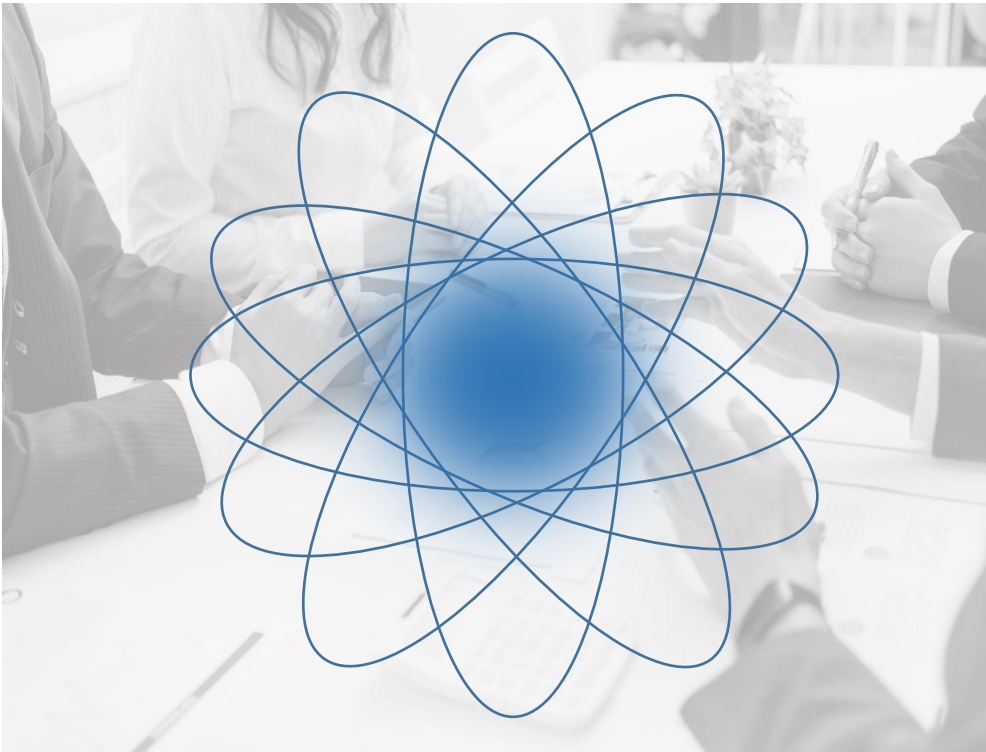
学校の願い(生徒・保護者・教職員の願い)

地域の願い・社会の願い



3. 今年度の取組 (4) 管理機関の支援

「マイスター・ハイスクールビジョン」の策定を通じて、「社会に開かれた教育課程」を実現していく。



① よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有します。

① これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力を明らかにし、それを学校教育で育成します。

① 地域と連携・協働しながらめざすべき学校教育を実現します。

4. 今年度の成果と課題

- (1) 学習評価
- (2) 事業評価

4. 今年度の成果と課題 (1) 学習評価

学習プログラムⅠ～Ⅳの成果

「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わるべきか。」という問いに対して、学習プログラムⅠ～Ⅳを通してたどり着いた生徒の考え。
(一部抜粋)

《生物生産学科現2年生：プロジェクトテーマの変容》

令和3年度	A班 環境に優しい方法で生産した庄原産のキャベツを広めることを目指します B班 地域の資源を生かしておいしい米づくりを広めていく
令和4年度	A班 スマート農業と学校給食のコラボレーション！～地域の野菜を地産地消～ B班 地域資源を生かしたこだわり米づくり

4. 今年度の成果と課題 (1) 学習評価

学習プログラムⅠ～Ⅳの成果

「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わるべきか。」という問いに対して、学習プログラムⅠ～Ⅳを通してたどり着いた生徒の考え。
(一部抜粋)

《食品工学科現2年生：プロジェクトテーマの変容》

令和3年度	C班 天然酵母を使って、庄原をイメージしたパンを作る D班 庄原の特産物を使った商品開発「庄原と言ったらこれ！」というものを作る
令和4年度	C班 庄原の特産品から抽出した天然酵母でパンを作る D班 庄原ジビエバーガー開発

4. 今年度の成果と課題 (1) 学習評価

学習プログラムⅠ～Ⅳの成果

「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わるべきか。」という問いに対して、学習プログラムⅠ～Ⅳを通してたどり着いた生徒の考え。
(一部抜粋)

《環境工学科現2年生：プロジェクトテーマの変容》

令和3年度	E班 自然を生かしたテーマパーク F班 空き家利用, 農業高校カフェ
令和4年度	E班 自然を活かしたアスレチック F班 古民家材で再生家具をつくる!

4. 今年度の成果と課題 (1) 学習評価

学習プログラムⅠ～Ⅳの成果

「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わるべきか。」という問いに対して、学習プログラムⅠ～Ⅳを通してたどり着いた生徒の考え。
(一部抜粋)

《生活科学科現2年生：プロジェクトテーマの変容》

令和3年度	G班 野菜紙芝居で知ってもらう農業 H班 かわいい作業服で農業女子を増やす
令和4年度	G班 お手頃野菜キットで農業で未来をつなぐ H班 デニム文化を庄原に広めよう！

学習プログラム I ~ IV の成果

学習プログラム取組中の生徒の感想

(一部抜粋)

採卵鶏の平飼いのPBLに取り組むことで、10年後の庄原地域がどのようなようになるのか考える力が付きました。そして、いろいろな方の話を伺ったり、体験したりすることで、広い視野で考えることができるようになりました。とても悩んだり、考えながら実践し続けてきました。目標が実現できるときっと大きな達成感を得ることができると思っています。



学習プログラム I ~ IV の成果

学習プログラム取組中の生徒の感想

(一部抜粋)

計画性や物事を客観的に見る見方, そしていかに人を楽しませるかを考える力が身に付いた。
「唐辛子で庄原を元気にする！」をテーマに庄原が唐辛子の生産量日本一になるための基盤を築くことを目標に取り組んでいる。まだまだ課題はたくさんあるが, 仲間と頑張りたい。



4. 今年度の成果と課題 (2) 事業評価

事業計画書に基づく事業評価 (アウトカム評価)

定性的評価				定量的評価			
項目	目標値	R3 実績値	R4 現状値	項目	目標値	R3 実績値	R4 現状値
キャリアノートにおける肯定的な変容が見られる生徒の割合	80%	記述内容により個人内評価として活用することに変更		F F J 検定上級取得者数	40%	55.7%	66%
「将来、県北地域の農業を成長させるためのアイデアがある」と回答した生徒の割合	35%	27.6%	30%	アグリマイスター顕彰プラチナ取得者数	4名以上	2名	0名
「自分の力で未来を創ることができると思う」と回答した生徒の割合	50%	43%	43%				

※ 赤字の部分は、昨年度の実証結果を踏まえて、令和4年度より目標値を設定しました。

※ キャリアノートにおける生徒の変容の見取りについては、記述内容を見取り、「個人内評価」として生徒にフィードバックすることとし、定性的評価項目から除き、報告書に記述で示すこととしました。

4. 今年度の成果と課題 (2) 事業評価

事業計画書に基づく事業評価 (アウトプット評価)

	項目	目標値	R3実績値	R4現状値
カリキュラム開発	産学官一体型の「学習プログラム」の開発に係る外部との協議	3回以上	5回	3回
	産学官一体型キャリアモデル開発に係る外部との協議	3回以上	1回	3回
	教育課程の刷新に係る外部との協議	3回以上	2回	3回
	マスタールーブリックを意識したシラバスの改訂	全学科	19科目	全学科
体制づくり	外部講師の活用時間数 産業実務家教育の活用時間数	100時間以上	105時間 40時間	121時間
	教科等横断的な授業の学習指導案	5案	11案	4案
	外部機関との共同研究数	各学科1テーマ以上	9件	14件
	時間割外実習での探究活動実施回数	10回	36回	—
	「産学官連携推進ルールブック高校生版(仮)」の作成に係る協議	3回以上	—	2回
	マイスターハイスクール推進会議の実施回数	2回/月	18回	31回
	マイスターハイスクール事業に係る教職員研修	3回/年	—	3回
	マイスターハイスクール事業に係る講演会実施回数	2回/年	1回	1回

4. 今年度の成果と課題 (2) 事業評価

その他の評価項目

その他の評価指標	目標値	R 1	R 2	R 3	R 4 現状値
就農可能率 ※卒業予定者に対する将来就農する意欲を持って進学・就職等した生徒の割合	15%以上	11.2%	10.9%	5.8%	—
広島県立農業技術大学校への進学者数	7名以上	5名	2名	1名	—
農業関連学部への進学者数 ※将来就農する意欲を持って進学した生徒の数	3名以上	2名	4名	4名	—

4. 今年度の成果と課題 (2) 事業評価

その他の評価項目	質問項目	R 2 実績値 (%)	R 3 実績値 (%)	R 4 現状値 (%)
既存のアンケートにより見取る項目 (全学年)	「地域に関する学習や活動を行うことで、地域の良さに気付くことができた」と回答した生徒の割合	85.4	76.8	—
	「将来、身近な地域に貢献したいと思う」と回答した生徒の割合	68.4	64.5	—
	「県北地域の良さや価値が分かる」と回答した生徒の割合	76.6	83.2	—
	「県北地域の課題を理解している」と回答した生徒の割合	72.2	81.9	—
新たに追加したアンケートにより見取る項目 (実証対象学年)	「将来、県北地域の農業を成長させるためのアイデアがある」と回答した生徒の割合		27.6	29.7
	「将来、自分自身で県北地域の課題解決に貢献することができる」と回答した生徒の割合		35.7	36.5
	「10年後の未来を想像することができる」と回答した生徒の割合		46.2	55.0
	「自分の力で未来を創ることができると思う」と回答した生徒の割合		43.0	38.9

4. 今年度の成果と課題

担当教員・コンソーシアム委員の声

- 1年次は専門的な知識・技術や、リサーチ等の汎用的なスキルが十分でないため、テーマ設定に苦労する。2年次、3年次と系統性を持たせて、知識や技術の習得・活用・探究サイクルを確実に回していく必要がある。
- 「未来思考型PBL」を教科学習に位置付けている場合は、教科・科目の目標達成状況を見取り、学習評価に反映する必要がある。
- プロジェクトテーマ設定前のエビデンスやサンプリングが弱い。
- プロジェクト実証における、試験区の設定や実験方法の検討において、数学や理科の知見を生かすなど、普通教科との関連が見いだせるのではないか。
- 全学年でPBLがスタートし、教職員数に適合した研究テーマ数となっておらず、リサーチやアイデアソン等の対応に追われる状況が発生している。

5. 今後の計画

5. 今後の計画

学習プログラムV「STEAM×PBL」の実践に向けた検討

STEAM

S (Science)
T (Technology)
E (Engineering)
A (Arts)
M (Mathematics)

STEAM教育

- 学問領域を横断して指導する
枠組み
- 各教科等での学習を実社会で
の問題発見・解決に活かして
いくための教科等横断的な学習

PBL

Project **B**ased **L**earning
Problem **B**ased **L**earning

課題解決型学習
問題解決型学習

自ら問題や新しい視点を発見
し、解決・実施する能力を養
うことを目的とした学習方法

5. 今後の計画

学習プログラムV「STEAM×PBL」の実践に向けた検討

- ▶ 第1回 教科・学科主任会議 5月23日（月）
 - ・「総合」の趣旨確認
 - ・設置学年などの検討
- ▶ 第1回「総合的な探究の時間」検討委員会 6月2日（木）
 - ・設置学年などの検討
 - ・目標の確認
- ▶ 「総合的な探究の時間」の教材検討

5. 今後の計画

学習プログラムⅤ「STEAM×PBL」の実践に向けた検討

科目「総合的な探究の時間」の目標

- ①探究の見方・考え方を働かせる
- ②横断的・総合的な学習を行う
- ③自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく

(高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 総合的な探究の時間)

5. 今後の計画

別紙様式1

令和3年度入学者に係る教育課程(帯表)

校番91 学校名 広島県立庄原実業高等学校 全日制課程 本校

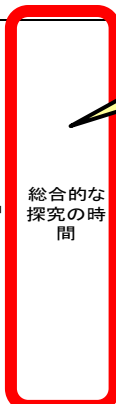
学年	学科 / 単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
一 年	生物生産学	国語総合				地理A		数学I			生物基礎	体 育			保 健	芸術 (音楽I) (美術I) (書道I)	コミュニケーション英語I		家庭基礎	社会と 情報	農業と環境				生物生産学 基礎	ホーム ルーム 活動	生物生産学 基礎(外)									
	食品工学										化学基礎														食品工学 基礎(外)											
	環境工学										化学基礎														環境工学 基礎(外)											
	生活科学										生物基礎														生活科学 基礎(外)											
学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
二 年	学科 / 科目	共通科目															専門科目										選択ア※		ホーム ルーム 活動	農業実践研 究(時間割 外)						
	生物生産学	園芸流通 動物生産	現代文B				世界史A		数学A			化学基礎	体 育	保 健	英語表現I			農業実践研究		野菜	果樹	数学II	コミュニケーション英語II													
	食品工学	生物工学										生物基礎								畜産	衛生管理 技術	植物バイオ テクノロジー														
		食品製造										物理基礎											食品製造	食品化学	食品製造	食品流通										
	環境工学	環境開発										化学基礎								森林科学	農業測量	農業土木 設計	農業土木 施工	水循環												
		環境保全																							食品製造	食品化学	食品製造	食品流通								
生活科学	生活文化	生物基礎																			森林科学	生物活用	フード デザイン	ファッション造形基礎	社会福祉 基礎	生活支援 技術										
	生活福祉		生物活用	フード デザイン	ファッション造形基礎	社会福祉 基礎	生活支援 技術																													
学年	単位		1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11	12	13	14	15	16			17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
三 年	学科 / 科目		共通科目										選択ウ		専門科目										選択イ※		ホーム ルーム 活動									
	生物生産学		園芸流通 動物生産	現代文B		現代社会		数学B		地学基礎	体 育	英語演習	国語演習 日本史A 総合数学 物理 化学 生物 英語表現演習 情報処理			課題研究		野菜	果樹	数学II		コミュニケーション英語II														
	食品工学		生物工学							物理基礎								畜産	家畜飼養	畜産機械		農業経営	草花園芸													
		食品製造	生物基礎							食品製造											化学分析 技術			食品製造	醸造	植物バイオ テクノロジー										
	環境工学	環境開発	化学基礎							環境科学								農業測量	農業土木 設計	農業土木 施工	水循環															
		環境保全																				食品製造	食品化学	食品製造	食品化学											
生活科学	生活文化	地学基礎																環境科学	生物活用	フード デザイン	生活実務	ドレスメイキング														
	生活福祉			生物活用	フード デザイン	生活実務	生活と 看護	社会福祉 基礎	生活支援 技術																											
学年	単位			1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12	13		14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

※選択ア及び選択イにおいて、ジェネラリストタイプ(Gタイプ)は数学II及びコミュニケーション英語IIを、スペシャリストタイプ(Sタイプ)は専門科目を選択する。

5. 今後の計画

令和4年度(入学者)教育課程																																																										
学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30																											
二 年	学科 / 科目	共通科目															専門科目										選択ア※																															
	生物 生産 学	園芸流通	文学国語	歴史総合	数学I	数学A	化学基礎	体育	保健	論理・表現I	農業実践研究	野菜	果樹	農業経営	栽培と環境	数学II	英語コミュニケーションII	食品化学	農業	栽培	生物	環境工学	環境開発	環境保全	生活文化	生活福祉	生活文化	生活福祉	生活文化	生活福祉																												
		動物生産																													化学基礎	野菜	果樹	農業経営	栽培と環境																							
	食品 工学	生物工学																													生物基礎	食品化学	農業	栽培	生物																							
		食品製造																													物理基礎	農業	栽培	生物																								
	環境 工学	環境開発																													化学基礎	農業	栽培	生物																								
		環境保全																													化学基礎	農業	栽培	生物																								
	生活 科学	生活文化																													化学基礎	農業	栽培	生物																								
		生活福祉																													化学基礎	農業	栽培	生物																								
	学科 / 科目	共通科目																													専門科目										選択ア※																	
三 年	生物 生産 学	園芸流通																													文学国語	地理総合	総合数学	地学基礎	体育	英語演習	総合的な探究の時間	課題研究	野菜	畜産	飼育と環境	農業経営	食品製造	食品微生物	食品流通	食品化学	植物バイオテクノロジー	化学分析技術	食品製造	食品学	食品製造	食品化学	農業経営	食品製造	食品微生物	食品流通	食品製造	食品微生物
		動物生産	地学基礎	野菜	畜産	飼育と環境	農業経営	食品製造	食品微生物	食品流通																																																
	食品 工学	生物工学	物理基礎	食品化学	植物バイオテクノロジー	化学分析技術	食品製造	食品学	食品製造	食品微生物	食品流通																																															
		食品製造	生物基礎	食品化学	植物バイオテクノロジー	化学分析技術	食品製造	食品学	食品製造	食品微生物	食品流通																																															
	環境 工学	環境開発	生物基礎	環境科学	農業測定	農業土木設計	農業土木施工	水循環	環境科学	農業測定	農業土木設計	農業土木施工	水循環																																													
		環境保全	地学基礎	環境科学	栽培と環境	林産物利用	森林経営	水循環	環境科学	栽培と環境	林産物利用	森林経営	水循環																																													
	生活 科学	生活文化	地学基礎	生物活用	フードデザイン	生活実務	食品加工	ファッション造形演習	生物活用	フードデザイン	生活実務	食品加工	ファッション造形演習																																													
		生活福祉	地学基礎	生物活用	フードデザイン	生活実務	成人看護	社会福祉基礎	生活支援技術	生物活用	フードデザイン	生活実務	成人看護	社会福祉基礎	生活支援技術																																											

STEAM教育等の教科等横断的な学習を
実践していくことで、学校全体で学校
教育目標の達成に向けて取り組む。



4. 今後の計画

変更前

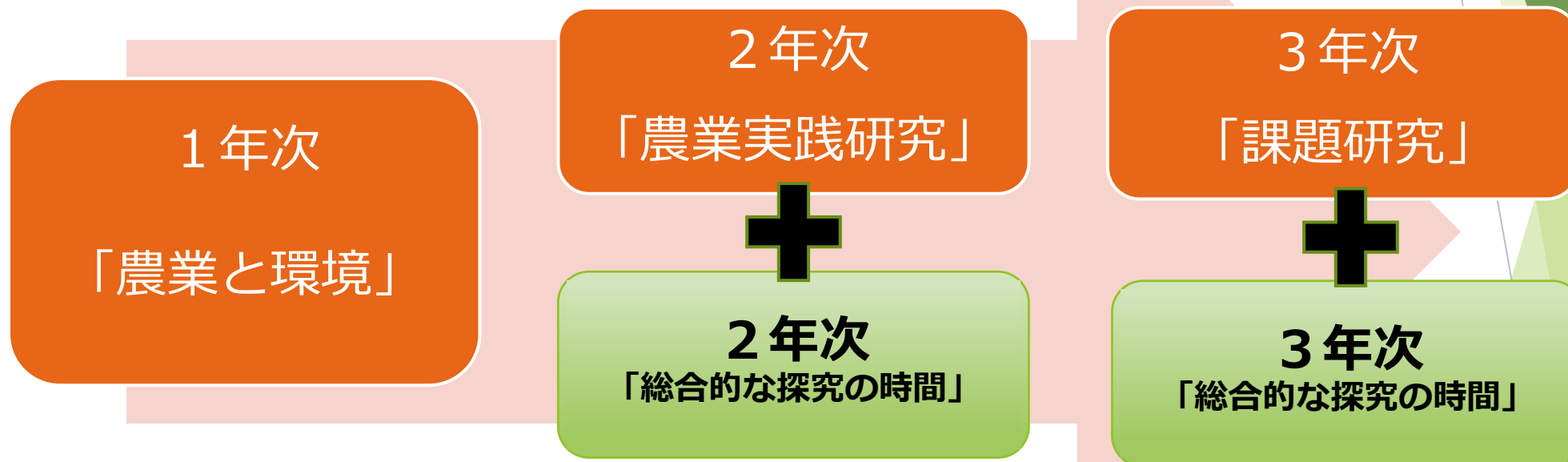
学年	1	~	15	16	17	18	19	20	21	22	~	29
二 年	普通科目						農業実践研究					専門科目
三 年	普通科目			総合的な探究の時間		課題研究			専門科目			



変更後 (案)

学年	1	~	15	16	17	18	19	20	21	22	~	29	
二 年	普通科目						総合的な探究の時間	農業実践研究					専門科目
三 年	普通科目			総合的な探究の時間		課題研究			専門科目				

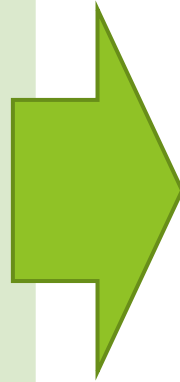
5. 今後の計画



5. 今後の計画

2年次

- 探究とはなにか
- 研究テーマの設定方法
- 先行研究, 先行事例の研究
- 仮説立てとはなにか
- プレゼンテーションの方法
- 研究論文の作成方法



3年次

- 探究に必要な計算 (数学)
- 研究論文の書き方 (国語)
- 探究に必要な基礎知識の定着 (数学・理科・外国語)
- プレゼンテーションスキル
- 探究活動を卒業後の進路に繋げる取組

5. 今後の計画

令和5年度に向けて

庄原ひとづくりコンソーシアムの運用	<ul style="list-style-type: none">● 共同研究，共同施設利用の実践と充実。● 中学・高校・大学等・地域と一体化したキャリア形成モデルを作成。● 「庄原ひとづくりコンソーシアム」における取組の持続化に係る検討。
教育課程の実施	<ul style="list-style-type: none">● 学習プログラム，産業実務家教員，校外実習等の授業における，目標と指導と評価が一体化した授業デザインシートの見直し。● 基礎的・専門的な知識・技術の習得と汎用的な資質・能力の習得の適時性，時間配分に関するPDCAサイクルの運用。● 教職員のファシリテート力，コーチング力の研鑽。
校内体制・学校文化の伝承	<ul style="list-style-type: none">● 産業実務家教員活用のねらいと生徒に身に付けさせたい力とを整理した年間指導計画の見直し。● 2年生対象の科目「総合的な探究の時間」の実施。● 情報や取組を校内外に共有する。● 各種評価計画の検討。



~ Think Globally, Act from Shobara ~

